

ミライカフェほの国 2016

主催 穂の国みらいづくり実行委員会、
東三河県庁、
公益社団法人東三河地域研究
センター
後援 東三河広域連合

ミライカフェほの国 2016 を平成 28 年 2 月 13 日(土)10 時 30 分より、名豊ビル(ホール D E)にて開催 この事業は愛・地球博開催地域社会貢献活動基金の助成金を受けて行った。

1. テーマ

高校生が他校の生徒との意見交流を通し自分の住んでいるまちを知り、住み続けたいまちづくりのために自分たちが出来ることは何かを考える。さらに、ビジネスプランの発表を行うことで、地元への関心や愛着心を高める場として開催した。

2. 参加高等学校等

(1)参加高校

・渥美農業高校	8 名、引率教諭	1 名
・田口高校	4 名、引率教諭	2 名
・豊橋商業高校	7 名、引率教諭	2 名
・豊橋工業高校	4 名、引率教諭	1 名
・豊川工業高校	4 名、引率教諭	1 名
合計 高校生	27 名、	教諭 7 名

(2) コーディネータ

- ・中野 和久(地域ビジネス研究所 所長)
- ・内浦 有美(㈱うちうら 代表取締役)
- ・田中 義治(愛知県東三河総局産業労働課)
- ・鵜飼 智恵美
- ・戸田 えりか

3. 開会挨拶

愛知県東三河総局企画調整部産業労働課課長 岡本邦雄氏より、「ミライカフェほの国 2016」開催に際してのご挨拶を頂いた。



4. 東三河の実情の紹介

東三河の現状とこれからについて、穂の国みらいづくり実行委員会委員長 加藤勝敏より説明した。

- ・文化に関して、奥三河の「花祭り」や豊橋の「手筒花火」、豊川の「豊川稲荷」といった有名な祭りや観光地がある。近年では豊川市の「いなり寿司でまちおこし」といった新しい文化を拡げる活動も盛んである。

東三河の実情 ～歴史文化～



- ・工業に関して、東三河はものづくりの一大集積地である。特に外資系自動車の輸入が盛んであり、全国の約 45% (全国 1 位) を占めている。
- ・商業に関して、近年駅前の整備等により中心地にぎわいを高める活動が行われているが、空き店舗の利用はなかなか進んでいない。リゾートに関しては、蒲郡等の温泉は古くからの観光地であったが、昔のような賑わいが薄らいでいる。その一方で、ラゲーナ蒲郡は民間会社の支援を受け復活してきており、今後は海外の旅行者を取り込んでいくことが課題である。
- ・東三河には 4 つの大学(豊橋技術科学大学、愛知大学、豊橋創造大学、愛知工科大学)がある。
- ・医療従事者に関して、東三河の医師数・看護師数はともに県平均や全国平均より低く、十分な医療体

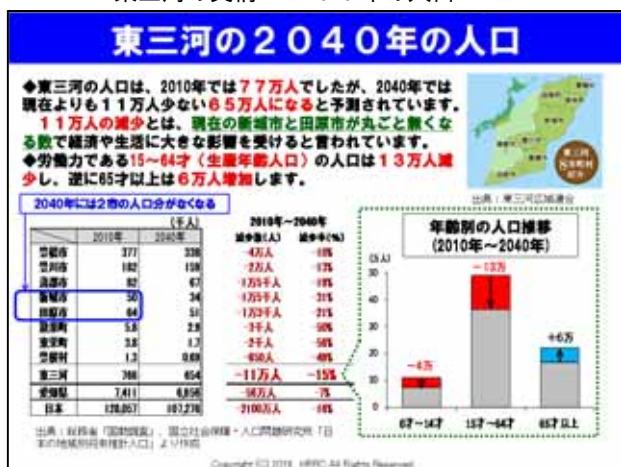
制の維持が困難になっている。このため、医療機関同士での医師の交流が進められている。

- ・インフラ整備に関して、近年新東名高速自動車道の整備が進められ、2016年2月に愛知県内が完成した。
- ・地域開発に関して、平成19年には「食農産業クラスター推進協議会」が設立され農産物等を利用した加工食品づくりを推進している。しかしこうした動きは全国で広がっているため競争が激しく、ビジネスとして成功することが難しくなっている。
- ・2040年の人口予測に関して、東三河では2010年の77万人から11万人減少した65万人になると予測されている。11万人の減少とは、現在の新城市と田原市が丸ごと無くなるほどの数で、経済や生活に大きな影響を受けると言われている。また、年齢別にみると、労働人口が13万人減少し、逆に65歳以上は6万人増加すると予測されている。

ユニケーション能力を高めたいという意見が多かった。



東三河の実情 ～2040年の人口～



5. 地域課題に関する意見交換

高校や性別、学年が多様な小グループ(6-7名)に1人ずつファシリテーターを配置し、グループワーク形式で意見交換を行った。グループワークは、ファシリテーターの進行のもと、ワークシートに各自自分の意見を記入した後で、グループ内で意見を交換し合うという方法で行った。また、グループワークの合間で、会場全体で意見を交流する時間を設けた。

(1) 参加高校生の自己紹介

「自分の学校の気に入っている所や変な所」「マイブーム」「この会で得たいもの」について、グループ内で発表した。

「この会で得たいもの」は、東三河のことを知りたいという意見や、他校の生徒との交流を通してコミ



自己紹介

学校	学年	住んでいるまち	自分の気に入っている所や変な所	マイブーム	この会で得たいもの
渥美農業	1	豊橋市	課題が少ない	釣り	東三河の現状と未来について
	1	田原市	無駄に階段が多い	友達と勉強	田原市以外の地域の取組
	1	田原市	自然が多い	インターネット	コミュニケーション能力
	1	田原市	・農業が学べる ・放課に携帯が使えない	ゲーム	友達をつくる
	1	田原市	文化祭	ゲーム	コミュニケーション能力
	1	田原市	農業についての授業	ゲーム	田原市についてもっと知りたい
	2	豊橋市	緑であふれている	音楽を聴いて、歌うこと	コミュニケーション能力
	2	田原市	周りに自然が多い	走る	色々な意見を聞いて考える
田口	2	東栄町	林業について実習ができる	ゲーム	東三河の様々なことを知りたい
	2	設楽町	自動販売機がない	ゲーム、歌	友達を増やす
	2	設楽町	体育館	ゲーム	経験
	2	設楽町	・山がたくさんあるところ ・自然薯がすぐ売り切れる	声真似	話題
豊橋商業	3	豊橋市	色々な授業で電卓を使える	洋楽を聴く	東三河を活性化するための意見を聞きたい
	3	豊橋市	検定取得	ビリヤード	話す能力
	3	豊橋市	進学、就職をぎりぎりまで悩める	料理、本	他の人の考えを知る
	3	豊橋市	制服がきちんと着こなせていること	飲むヨーグルト	他の高校生が行ってきたことを知りたい
	3	豊川市	・信頼 ・身なりについて、豊橋1厳しい	携帯のアプリ、インターネット、ドラマ	地域政策、たくさんの意見
	3	豊橋市	先生たちが良い	ラップ	なんらかの知識
	3	豊橋市	マイ電卓がある	テニス	自分以外の考えを聞いて、考える力
豊橋工業	2	豊橋市	工業高校なので男子が多く、気を使わないでよい	音楽を聞く	東三河のことを深く知って貢献していきたい
	2	豊橋市	男子が多い、個性的な人が多い	テレビ	色々な学校と意見交換をして今後の活動に活かしたい
	2	豊橋市	先生の個性が強い	読書	他の学校の人達のことを知る
	2	豊橋市	男子が多いので結束力が強い	アーティスト	コミュニケーション力をあげたい
豊川工業	1	豊橋市	職員室がたくさんある	アニメ	地元の良い所を知る
	1	豊川市	皆大きい声で挨拶ができる	ベース	楽しくこの地域のことを考えたい
	1	田原市	元気	乳製品を食べる	コミュニケーションをとる
	1	豊川市	モノづくりができる	テレビドラマ、卓球	コミュニケーション、主張

(2) 地域の課題を見つけよう

地域課題を発掘するために、「自分のまちの好きなところ、嫌いなところ」「自分の住んでいるまちはどう見えるか（子供から、若者から、子育て世代から、お年寄りから、障がい者からみて）」「自分の住んでいるまちに活気はあるか」という3つの設問について、それぞれ意見交換を行った。

自分のまちの好きなところ、嫌いなところ 高校生の意見（住んでいるまち別）

（豊橋市）

- ・好きなところ
都会過ぎず田舎過ぎない、交通手段が選べる、祭りが盛ん等
- ・嫌いなところ
大型デパートや遊ぶところがない、駅から離れると不便等

（田原市）

- ・好きなところ
自然が豊か、地域交流が盛ん等
- ・嫌いなところ

遊ぶ施設がない、交通が不便、子供が少ない等
（設楽町）

- ・好きなところ
自然が多い、人とのつながりが強い等
- ・嫌いなところ
商業施設がない、交通の便が悪い、若い人が少ない等

（豊川市）

- ・好きなところ
歴史がある、高速道路が通っている等
 - ・嫌いなところ
商業施設や遊ぶところがない、名産品がない等
- （東栄町）
- ・好きなところ
木が多く空気がきれい
 - ・嫌いなところ
コンビニなどの施設が少ない

自分のまちの好きなおとこ、嫌いなところ

まち	学校	自分のまちの好きなおとこ	自分のまちの嫌いなところ
豊橋市	渥美農業	行事があるたびにイベントを開く 交通手段が電車、バス、自転車等選べる	店がない 大きいショッピングモールが少ない
	豊橋商業	地域のスーパーマーケットの物価が都市と比べ安い	駅前から少し離れると、静かな所が多い
		便利	・地味 ・歩道の管理
		人が少ない、和やか	・交通手段がない ・スーパーがない
		食べ物、特に野菜が美味しい	・交通の便があまり良くない ・デパートが少ない
		自然が多い	・街灯がない ・電車高すぎ
		食べ物が美味しい	ごみが町に落ちていることが多い
	豊橋工業	・祭りが多い ・駅からいろいろな所に行けて便利	豊橋駅から離れると、あまり大きな施設がない
		・自然が多く、夜は星がきれい ・蛍が見れる	店が遠く、買い物に行くのに時間がかかる
		都会過ぎず、田舎過ぎない 自然もあり、まちも発達していて丁度良く、住みやすい	夜バイクがうるさい 遊べる商業施設が少ない
	豊川工業	・イトーヨーカドーに近い ・駅から自転車で15分	・南の方に行くのと畑がとても多いが、最近家が建ってきた ・交通整備
田原市	渥美農業	・祭りが活気があり、地域交流が多い ・部活動が盛ん	・交通機関 ・子供が少ない ・山道が多い
		自然が豊か	交通事故が最近多い
		自然がいっぱいで空気がきれい	遊ぶ施設が少ない
		自然が豊か	コンビニが一部地域に集まっている
		自然が感じられる	交通が不便
		自然が多い	バスや電車の運賃が高い
	豊川工業	自然が多い	遊ぶ場所がありません
設楽町	田口	・山が多い ・近所が知り合いが親戚しかいない	・山しかない ・交通の便が悪い ・近所が遠い ・コンビニが遠い
		・緑が多い ・人とのつながりが強い	交通の便が悪い
		・自然を感じられる ・農作物をわけてくれる	・若い人が少ない ・商業施設が少ない
豊川市	豊橋商業	・本宮山 ・高速道路 ・野菜が安い	・田舎 ・好きな服屋、大きなショッピングモールがない
	豊川工業	歴史がある	遊べる場所が少ない
		-	名産品がないこと
東栄町	田口	木が多いので空気がきれい	コンビニなどの施設が少ない

自分の住んでいるまちはどう見えるか（子供から、若者から、子育て世代から、お年寄りから、障害者からみて）

高校生の意見（住んでいるまち別）

（豊橋市）

- ・子供：遊び場が少ない、公園が多い
- ・若者：遊ぶところが少ない、就職先が多い等
- ・子育て世代：病院や学童保育所が少な等
- ・お年寄り：安全な道が少ない、福祉施設充実等
- ・障害者：バリアフリーが普及している等

（田原市）

- ・子供：遊び場が少ない、公園が多い、自然に触れられる等
- ・若者：遊ぶ店が少ない、仕事をする場所がない
- ・子育て世代：地元の野菜を食べられ安心等
- ・お年寄り：農業をしやすい環境、生活を支援してくれるところが少ない、地域交流がある等
- ・障害者：介護施設がある、坂が多く不便

（設楽町）

- ・子供：人が少なく仲が良い、公園が少ない等
- ・若者：遊ぶところがない、交通の便が悪い等
- ・子育て世代：のびのびと育てられる等
- ・お年寄り：1人であることが多く心配等
- ・障害者：坂が多く不便

（豊川市）

- ・子供：公園が少ない、山川で遊べる
- ・若者：遊ぶところ、買い物するところがない等
- ・子育て世代：子供を遊ばせるところが少ない等
- ・お年寄り：暮らしやすい等
- ・障害者：バリアフリー化が進んでない等

（東栄町）

- ・子供：大自然で遊べる
- ・若者：通学が大変
- ・子育て世代：スーパーがなく、不便
- ・お年寄り：病院が少ない
- ・障害者：設備が整っていない

自分の住んでいるまちはどう見えるか

住んでいるまち	学校	自分の住んでいるまちはどう見えるか				
		子供から見て	若者から見て	子育て世代から見て	お年寄りから見て	障害者から見て
豊橋市	渥美農業	遊べる場がない	渥美線の電車賃が高い	病院が少ない	スーパーが無く、買い物にひと苦労	地域の人々が助けてくれる
		近所づきあいが良い	近所づきあいが良い	近所づきあいが良い	散歩に行きやすい	施設がちゃんと備わっている
	豊橋商業	アミューズメント施設が少ない	ショッピングするところが少ない	学童保育所が少ない	安全に通れる道が少ない	バリアフリーな所が少ない
		公園が多くて良い	もう少し栄えて欲しい	大きいショッピングモールが欲しい	歩道の整備	歩道の整備
		友達をつくりやすい	通学に不便	保育園は困らない	仲間がたくさん	対策はされていない
		遊ぶ場所が少ない	ショッピングモールが少ない	はぐみんカードが良い	歩くコースがある	駅はバリアフリー化されていて良い
	豊橋工業	良い	中々良い	中々良い	中々良い	分からないが、イメージでは良い
		公園が多くて良い	遊ぶところがない	近くにお店があって育てやすい	狭い道が多く、危険	障害者をサポートする対策が多くあり良い
		公園などの施設が多い	交通手段が多い	様々な施設が多くあり、子育てしやすい	都市化が進み、追い付いていない	バリアフリーが多く普及している
		自由に遊べる	遊べるところが少ない	買い物に時間がかかる	買い物が大変	孤立している
田原市	渥美農業	公園が多くて良い	住みやすい	店が近くにあり便利	福祉施設がしっかりしている	介護施設がある
		公園が多くて良い	企業が多く就職しやすい	のんびりした町なので、育てやすい	福祉施設がしっかりしている	介護施設がしっかりしている
	豊川工業	公園が多い	遊べる範囲が広い	子供を安心して遊ばせられる所がある	都市化についていけない	バリアフリーが所々ある
		遊び場が少ない	仕事をする場所がない	病院施設が整っていない	老後の生活を支援してくれるところが少ない	車いすが通れる道が少ない
		公園が広い	遊ぶところが少ない	店が近くにある	地域交流がある	介護施設がある
		公園がたくさんある	つまらない	子育てしやすい	過ごしやすい	介護施設がある
	豊川工業	公園があまりない	店が少ない	保育施設、用品店が少なく大変	過ごしやすい	介護が充実している
		自然に近い	遊び場所が少ない	地元の野菜を食べられるので安心	農業ができて暇つぶしになる	買い物に不便
		遊ぶところがすくない	学生が楽しめるお店が少ない	学校や保育園が少なく、送り迎えが大変	農業をしやすい環境	急な坂を登るのが大変
		・自然に触れられる				
設楽町	田口	公園が多くて良い	遊ぶ場所が少ない	保育園が少ない	快適	介護施設が少ない
		人が少ないから仲が良い	遊ぶところがない	保育園はあるが歩いていけない	坂が多く、車が通る	・坂が多い ・施設がある
		広場や公園を増やすべき	交通の便が悪い	子育て支援がしっかりしている	介護施設が少ない	介護施設が少ない
豊川市	豊川商業	面倒が良い	同世代の人がいない	のびのびと育てられる	1人でいることが多いから心配	施設で世話をしてくれる
		公園が少ない	ショッピングモールがない	・桜がきれい ・外食(飲食店多い)	・グリーンセンターがある ・散歩	施設がある
		公園が少ない	遊ぶところがない	子供を遊ばせる所が少ない	暮らしやすい	バリアフリーが少ない
東栄町	田口	川や山で遊べる	いいところも悪い所もない	いいところも悪い所もない	いいところも悪い所もない	いいところも悪い所もない
		大自然で遊べる	通学が大変	スーパーが少ないので大変	病院が少ない	設備が整っていない

自分の住んでいるまちに活気はあるか

高校生の意見(住んでいるまち別)

(豊橋市)

- ・ある 3人(お祭りが多い、このような会があるから等)
- ・ない 10人(祭りに若者や子供が参加しない、商店街のシャッターが閉まっている等)

(田原市)

- ・ある 5人(イベントや祭りが多く、挨拶をしてくれる、農業が盛ん等)
- ・どちらとも言えない 2人(中心部でしか盛り上がっていない)

(設楽町)

- ・ある 2人(お年寄りが元気、人とのつながりが強い等)
- ・ない 1人(祭りやイベントはお年寄りが主導で、限界だから)

(豊川市)

- ・ある 2人(中心部が賑わっている、イベントがある等)

- ・どちらとも言えない 1人(数年で施設がたくさんできた、豊川稲荷は1月から5月を過ぎると人が少なくなる等)

(東栄町)

- ・ない 1人(イベントが少なく、あっても一時的なもの)



自分の住んでいるまちに活気はあるか

まち	学校	活気	理由
豊橋市	渥美農業	ない	昔やっていた商店街が今はやっていないから
		ある	お祭りでは子供からお年寄りまで参加できて楽しめるから
	豊橋商業	ない	祖母に、豊橋で何が有名か知っているか聞いても、分からないという答えが返ってくるから
		ない	・街並みが地味 ・便利だけど活気があるとは思えない ・アウトレットみたいなものがほしい
		ない	活気というより、静かで穏やか。帰ってくる場所、という感じ。
		ない	シャッターが閉まっている店が多い
		ある	このような会があることが、変化をもたらすきっかけになるのではと思うから
		ない	自分から動く人が少ない
	豊橋工業	ない	自分の住んでいる所はお年寄りが多くあまり祭りなども盛り上がるのがない
		ない	・近所との交流が少ない ・パワースポットがない
		ない	シャッターの降りている店が多い
	豊川工業	ある	お祭りが多い
田原市	渥美農業	ある	加治町では人同士が仲良くなるために、運動会や餅つき大会など毎年色々なイベントがあり、農業体験もある。みんな元気がある。
		ある	イベントが多い
		ある	地域の祭りがたくさんある
		どちらとも言えない	地域(校区)によって違い、中心部は活気があるが、他はあまりない
		ある	通学の途中、色々な人が挨拶をしてくれる
	豊川工業	ある	朝市をしているなど、農業や自動車業が盛んだから
設楽町	田口	ある	・お年寄りがパワフル ・学生はなんとかして友達と遊ぶ ・人口は少ないが、人とのつながりが強い ・中高年世代が頑張っている
		ある	・人口は少ないが、人とのつながりが強い ・中高年世代が頑張っている
		ない	地域で祭りやイベントがたくさん行われているが、老人ばかりでやっているところも増え、ぎりぎりで行っているから
	豊川工業	ある	・大きな施設(コロナ)やスタバ等、数年でいろいろできた ・いきなりB1グランプリをとった ・豊川稲荷も1月から5月頃は人が多いが、そこを過ぎると少ない
豊川市	豊橋商業	どちらとも言えない	・大きな施設(コロナ)やスタバ等、数年でいろいろできた ・いきなりB1グランプリをとった ・豊川稲荷も1月から5月頃は人が多いが、そこを過ぎると少ない
	豊川工業	ある	遊ぶ場所が中心部に集中しているからにぎわっている
東栄町	田口	ない	国府祭りや国府の市でのイベントがある



(3) 地域課題を解決しよう

地域課題を解決するために、「自分のまちがもっとこうなればいい、そのために必要なもの」という設問に対しての意見交換を行った。

高校生の意見

- ・お店を増やしたい→お金が必要→今ある場所を利用して資金を集める、ふるさと納税を利用。
- ・交通機関を充実させたい→利用者を増加させることが必要。→イベントを増やす。
- ・外国人が訪れやすいまちにしたい→手筒花火やちくわなどまちの名物をつくる体験等を英語対応にする。
- ・市全体でのイベントを増やしたい→町内で色々な世代が集まり意見を出す、市内全体への情報開示等が必要。等々。

自分のまちがこうなればいい、そのために必要なもの

まち	学校	自分のまちがもっとこうなればいい	そのために必要なもの
田原市	渥美農業	・市の良さを伝えられるきっかけとなる場所 ・歴史や、どのような所かが分かるマップが必要	・自分たちの市の良い所などを改めて見直し、老若男女の意見を取り入れる。観光マップをつくったり、スタンプラリーをやったりして、楽しく知れるようにする ・自然の良さや農業が盛んであることをブログ等を書く
		・楽しい、だれでも遊べる場所 ・車も歩行者も通りやすい道	空地
		遊ぶ施設や服屋が欲しい	・お金(ふるさと納税で集めるのはどうか) ・人手
		・道を広くして欲しい ・農業を前面に出した方が良い ・灯りを増やすと良い	・人手 ・アイデア ・資金 ・場所、時間
設楽町	田口	・遊ぶ場所を増やす ・バス路線と本数を増やす ・交通網の改善 ・若者の楽しめる商業施設の増加 ・時間をかけずに食品を調達しやすい	利用者の増加。そのためには菜の花祭りのような、祭りを増やす必要がある ・人口増加 ・働ける場所、イベントを増やす ・バスや電車の利用者を増やす(イベントを増やす)
		・田原市民が全員で盛り上がるイベントを作り、活気を出す ・建物を増やす ・夜暗いので街灯を増やす	・やる気 ・資金 ・人 ・アイデア ・場所、時間 ・知識
		・バスの本数増加 ・電車が欲しい ・観光地がないので、何か有名どころがほしい ・店がもっとほしい ・子供の遊ぶ場所	・利用者を増やす ・住人を増やす ・観光地を都会の人にアピールする
		・交通整備 ・公園、介護施設を増やす ・子どもや老人が過ごしやすいまちに	・経済的なもの(金、行政) ・人材
豊川市	豊橋商業	・ゴミ袋の色を変えて欲しい(カラスにより荒らされるため) ・イオンのお店を変えて欲しい ・電灯を増やして欲しい ・バスを増やして欲しい	・移住者の移住条件をなるべく満たしていけるよう、地域の人で協力 ・新しい産業をつくれれば働ける人も増える ・地域の必要な施設をつくって、他の施設もつくる ・空地の提供
	豊川工業	・交通の便が良くなり、もっと人が集まるような施設が欲しい ・イベントを増やす ・道を広くする、交通網増	・ゴミ袋の色を黄色に変える ・バスの乗り場を増やす ・小中高のボランティアを増やし皆と触れあう ・アウトレット ・お金 ・人
東栄町	田口	・道を整備する ・施設を増やす ・人を増やす	・イベントを年に1回から2回以上にする ・施設を増やす(人は集まるのか、場所がない) 人を呼び込む

まち	学校	自分のまちがもつこうなればいい	そのために必要なもの
豊橋市	渥美農業	現状維持	若者が他の地域に行かないよう、良い所(祭り)をアピールする
		家族ぐるみで気軽に出かけられるお店を増やすことで、出かける機会を増やす	・人が沢山いること(意見調査のため) ・お店をつくる場所
	豊橋商業	・高齢化が進んでいるため、子供もお年寄りも住みやすいまちが良い ・外国人観光客が年々増加しているため、外国人が訪れやすいまちが良い	・手筒花火やちくわは外国の方にとって興味深いものだと思うため、手筒花火やちくわをつくる体験等を英語対応にできると良い
		・市全体でのイベントを増やして欲しい ・老若男女が参加可能なイベント(バザー等) ・街並みの変化	・市民の協力 ・市内全体への情報提示 ・水上ビルの整備、変化
		・スーパー増加 ・交通手段を増やすため、市電の路線拡大	・お金と土地 ・企業が店出しようと思える根拠 ・地域住民の賛成
		・ショッピングモールが増えて欲しい ・駅がもっと増えて欲しい ・道を平らに、広くして欲しい	・企業の協力 ・行政の働き
		豊橋全体に人が集まると良い	・それに見合った人の数 ・お金 ・知名度 ・条件の良い土地
		交通機関がもっと豊かになれば、商業施設も増え、お年寄りが生活しやすくなると思う	人、お金、場所。 今ある場所を利用して人を集める(今あるバスを利用したツアーを考えお客さんを集める。子供向けにはのんびりパーク、お年寄り向けには葦毛湿原や岩屋山。)ことで資金を集める。それにより、交通機関を増やしたり、新たな施設が建てられたい。
		・祭りを子供からお年寄りまで幅広く楽しめるよう、昔の伝統を見直して活気あふれるまちになればよい ・都市化を進めていくのは悪くないが、どんな人でも使いやすい、ということを考えて欲しい	・祭りならば、町内でいろいろな世代が話し合って意見を出す ・土地や立地条件が必要→今ある自然を維持すること
	豊橋工業	・スーパー等の店を近くに増やして欲しい	・お金 ・店や公共施設を利用する人
		大きな店が増える	・人 ・お金 ・場所 ・やる気
		・今ある交通機関をもっと使いやすくすべき(値段を下げるなど) ・豊橋は栄えているところと栄えていないところの差が激しいので、そのバランスをとるべき(観光に来てもらえるように、田舎も盛り上がるように)	蒲郡ならラグーナテンボス、というように、豊橋にも目玉となるような施設を建設
	豊川工業	お年寄りから子供へ何かをする交流会やイベント	・交流会を開く場 ・小中高校生をどう集めるか ・体験談が豊富な人



(4) こんなまちに住み続けたい

参加高校生が、働き手として活躍する世代となる25年後に焦点を絞り、これからも住み続けたいと思えるまちづくりには何が必要かを考えた。25年後をイメージするために、東三河における25年後(2040年)の人口減少と年齢構成の変化について説明をした上で、「25年後も自分のまちに住んでいると思うか」「25年後も住みたいまちをつくるために高校生の今から始められること」という設問に対する意見交換を行った。

25年後も自分のまちに住んでいると思うか 高校生の意見(住んでいるまち別)

- (豊橋市)
- ・はい 10人(愛着がある、住みやすい等)
 - ・いいえ 2人(他のまちで経験を積みたい等)
- (田原市)
- ・はい 4人(自然が好きだから、地元に貢献したい等)
 - ・いいえ 3人(就きたい職業が住んでいるまちにはないから等)
- (設楽町)
- ・はい 1人(今より交通整備が整っていると思うから等)
 - ・いいえ 2人(働く場所が無い等)
- (豊川市)
- ・はい 2人(就職先がたくさんある等)
 - ・いいえ 1人(高齢になったら戻ってくる)
- (東栄町)
- ・はい 1人(林業の仕事に就きたいから)

25年後も住みたいまちをつくるために高校生の今から始められること

高校生の意見(住んでいるまち別)

- ・自分のまちを知る、関心をもつ
- ・地域の人とコミュニケーションをとる
- ・若者だからこそ大胆な発想を出す
- ・高校で専門的に学んでいることを活かす(企業と組んで地元の特産品をつくる等)
- ・情報社会であるため、色々な手段でまちの良いところを発信し、人を呼び込む。等々。

25 年後も自分のまちに住んでいると思うか

まち	学校	25年後も自分のまちに住んでいると思うか	理由
豊橋市	渥美農業	はい	自分の生まれ育った地域に愛着があり、都会と比べると空気が良いから
		はい	今住んでいる場所が住みにくいわけではないので、離れられない
	豊橋商業	いいえ	若者の人口が減ることで経営が成り立たなくなつて施設がつぶれると、子育てが大変だと思うので、都市に住んでいると思う
		はい	将来の夢は教員。25年後、生徒が現状を知っていないと何も行動に移せないで、環境がどうかに関わらず、このまちのことを知らせていきたい。
		はい	・自分が楽しく育ったまちで生活したい ・周りが信用できる
		はい	・住んでいた場所の方が過ごしやすい ・実家が近い方がよい
		はい	・豊橋は劇的な変化はないと思うけど、きっと住み続けていると思う ・子どもをここで育てたい。豊かな子に、欲のない子になつてほしい ・今もそうだが、たまに名古屋やテーマパークに行くのが楽しい
		はい	若い人が少なくなっているから、活気は今よりもないと思うが、のんびりとした雰囲気の中で暮らしたいから
		いいえ	生まれ育った場所にいたい気持ちもあるが、他のまちに行つて色々な経験を積みたい
	豊橋工業	はい	・外にでたくない ・愛知県は工業地帯にあり、就職しやすい。通勤しやすい
		はい	昔から暮らしているところが暮らしやすい
		はい	・豊橋は気候が安定していてとても住みやすい ・就職が東三河辺りになるから
	豊川工業	わからない	自分がどんなふうになっているのか想像が出来ない。帰ってくるかもしれないし、他に居場所があるかもしれない。
田原市	渥美農業	はい	自分の知っている場所で最後まで生活したいし、自然があふれていると思うから
		いいえ	人口が減ってしまうので、店も遊ぶところも減ってしまうと思ったから
		いいえ	仕事の影響でそとに出ていると思うから
		はい	少しでも自分が育ったまちを良くしていきたいから
		はい	自然が好きで静かなまちで過ごしたいから。もし子供が出来たら子供にも自然を知らせていきたい
	豊川工業	いいえ	・お年寄りが多く、同年代の人が少なくなりそうだから ・農業をしているところが多そう、就きたい職業がなさそうだから
		はい	・地元に住み続けていたい心がある ・少しでも自分の地元で貢献したい
設楽町	田口	はい	・仕事をするのに住みやすい ・今よりも交通機関は発達していると思う ・住み慣れている
		いいえ	働く場所がない
		いいえ	・交通機関もまだ整備が整っていないと思う ・働き口もかなり少なくなっていると思う
豊川市	豊橋商業	いいえ	・将来の夢が愛知では叶わないから ・高齢者になったら戻ってくる
	豊川工業	はい	地元で工業系の就職先がたくさんある
	豊川工業	はい	もし自分が別の場所に住むと、自分の家がなくなってしまうから
東栄町	田口	はい	林業の仕事に就きたいから。現在林業は木材の価格が安くなってきているため、働き手が少なくなっている。自分が何とかしたい。

25 年後も住みたいまちをつくるために高校生の今から始められること

まち	学校	25年後も住みたいまちをつくるために高校生の今から始められること
豊橋市	渥美農業	530運動や植林活動等の環境活動を行い、自然豊かなまちをつくる
		周りの環境がゴミが多いので、無駄なものは買わない
	豊橋商業	SHOP豊商で私たちが販売者となり商品売ることで、地域の方々との交流を深める
		・若者だからこそ大胆な発想を出す ・商業科なので、経済状況を配慮した上で意見を出す、説得力がある ・意見をもつこと ・意見を伝える機会をつくる ・市役所や企業と連携した授業
		大人が考えない高校生のアイデアを発信していく
		・私たち高校生や若者の意見がすごく大切で、可能性がある ・豊橋、田原、豊川には材料が十分過ぎるほど揃っている(動物園、ジャスコ2店、サンテパルク、いちご狩り、メロン狩り、海など)
		・近所のお年寄りに気に掛ける ・豊橋市のことに関心を持つ(今度ある市長選挙にも参加する)
	豊橋工業	色々な場所にたくさん訪れることで、自分の住んでいる所にはない特徴を知る。その特徴や自分のまちの良い点を踏まえたうえで、25年後を想定したまちづくりをしていく
		近頃の職場に就くために、専門的な知識を身につける
		近所づきあい 生徒会などのボランティア活動を通して、地域の人と交流する
	豊川工業	きれいなまちがいいから、清掃運動に力をいれたい
田原市	渥美農業	・環境保護を身近な所から行う ・新しい名物や元々ある名物を地元から売り出していく
		地域との交流 企業と組んで地元の特産品等をつくる
		・勉強 ・イメージ
	豊川工業	今は環境づくりしかできないから、まちでゴミを拾ったり、買い物のとき袋を持参したり、ゴミの減量をする
		・ボランティアに参加して、愛着をもつ ・自分の家の周りの人、地区の人とコミュニケーションをとる
設楽町	田口	・田原のことをもっと知る ・専門的なことをもっと勉強する
		林業科を活かし、山や自然を呼びかけ人を呼ぶ。情報社会なのでいろいろな手段で呼びかける。
	豊川市	近所づきあいを大切にすることで、戻ってきやすくなる
		・移住した人たちから、どんなことをしたらもっとまちに来やすくなるかを聞く ・高校の活動で、地域の良さをアピールする
		・ゴミ拾い ・色々な活動に参加 ・選挙に行く
豊川市	豊川工業	・ボランティア等に参加してイベントを盛り上げて人を集める ・地域交流に参加する
		・挨拶 ・ボランティア部としてイベントの運営等を行う。地域交流
東栄町	田口	自分のまちには木が豊富にあるので、木で何かを作りたい





各設問で使用したワークシートは回収し、展示することで、より多くの人の意見を知る場とした。



6. ビジネスプランの意見交換

(東三河地域新事業創出支援事業成果発表会)

(1) 渥美農業高校 A 『耕作放棄地予防プロジェクト～地域資源の活用～』

農業従事者数の減少に伴い、耕作放棄地面積（過去1年間作付けされず、今後数年間耕作の意志がない土地の面積）は年々増加している。作物を長い間栽培しないと、土質が変化し再利用し辛くなる。耕作放棄地を未然に防ぐための取り組みを田原市市役所から提案され、活動を開始した。

栽培作物として、第一に土質を選ばず栽培労力が比較的小さいため、高齢者や兼業農家の方にも栽培しやすいさつまいもに着目した。田原市でさつまいもを栽培し、芋焼酎を加工販売している亀若倶楽部から、子供やお酒の弱い人でも楽しめるサツマイモスイーツを開発して欲しいという依頼を受け、さつまいもの甘さを生かしたパウンドケーキを完成させた。第二にいちじくに着目した。果樹園は省力化には向かないが、大規模経営が可能であり企業の新規参入が期待できる。田原市では、いちじくのばら受

け共選が行われていること等から、いちじくは比較的新規参入しやすい果物だと考えた。生産農家の方を訪問すると、いちじくは病害虫が発生しやすいため、全体の2割から5割もの規格外品が出てしまうことが分かった。規格外品を使った加工品があれば、収入が増え、新規参入しやすいのではないか、という意見を頂き、加工品開発に取り組んだ。試作を重ね、いちじくの酸味と甘みのバランスの良いジャムを完成させた。さつまいものパウンドケーキにいちじくのジャムをはさんだケーキを田原市の菜の花祭りで試食して頂くこともできた。

地域で実際に栽培されている作物の活用方法を開発することができ、また産学官の連携体制を構築することで高校生だけではできない大きな活動を行うことができた。今後は、栽培作物の需要拡大、ウィルスフリー苗を利用した栽培の省力化に取り組んでいきたい。

質疑応答 開発したパウンドケーキを試食しながら質疑応答を行った。



Q. ウィルスフリー苗とはどのようなものなのか。

A. 植物の脇芽というものを切り取って培地で無菌的に培養することで、病気が発生しにくい苗ができる。

Q. 地質が変化すると栽培しにくくなるのはなぜか。

A. それぞれの食物には合った土がある。さつまいもは土質を選ばないが、土質によって栽培しにくく、収穫が遅れてしまうような食物もある。

Q. いちじくやさつまいもを栽培する段階で、心掛けていること、工夫していることはなにか。

A. (農家の方から聞いた話) さつまいもは、水にとっても弱いため、収穫時にしっかりと水を切ることを意識している。いちじくは根元に草を敷くという工夫をしている。

- Q. 組合の方はこういった対策をしているのか。
- A. (今回発表した活動の中では) 私たちが開発した加工品に対する意見を組合の方から頂き、その意見を取り入れさせてもらう、という関わり方をしている。
- Q. いちじくやさつまいもを生産する際に、コスト面での問題はあったか。
- A. いちじくは、加工しても使えないようなものがあること、さつまいもはあまり長い時間放置してしまうと腐ってしまうというのがコスト面の問題だった。
- Q. パウンドケーキ以外にも、これはいけそうだなと思ったものはあるか。
- A. 最近ではラングドシャやシュークリームを試作した。シュークリームは良かったが、大量生産が難しく、賞味期限が短いということがあり、最終的にはパウンドケーキのほうが良いという結論になった。



(2) 渥美農業高校 B 『未利用資源の活用～四番茶利用への挑戦～』

愛知県は抹茶の原料となるてん茶の生産が盛んであり、全国で 22% のシェアをもっている。しかし近年はお茶単価の下落等により栽培面積は減少している。この現状を受け、田原茶に新たな価値をつけるための研究を始めた。東三河農林水産事務所田原農業改良普及課の提案を受け、製茶会社の磯田園製茶の四番茶を使った製品開発に取り組むことになった。四番茶とは 10 月後半に摘み取られる葉のことで、春に摘まれる一番茶よりも色が濃く硬い為、多くの場合捨てられてしまう。

様々な試作を行った中で、パンが製品化できるのではと考えた。試作を繰り返し開発したお茶の風味がしっかりと感じられるパン(お茶ぱん)について、試食アンケートを行ったところ、ふんわり感がほし

い、バター風味が強い、お茶の生地がべたつく、といった意見を得たため、改良を行った。発酵の見直しや生地の変更等、試作を重ねてこれらの課題を克服し、かつ廃棄率の低く製造効率の高い製品を完成させた。原価率が 30% となるように販売価格を設定し磯田園製茶で販売したところ、完売することができ、材料費や人件費等の経費を上回る売り上げを出す事が出来た。

現在、東三河総局の東三河産業創出支援事業に採択され、商品化に向けた支援を受けており、色々な企業の方と共同開発をしている。田原市の洋菓子屋長栄軒でお茶パンをつくってもらい、材料を検討することで、さらに改良がすすんだ。また、自分たちで考えた案をもとにデザイナーの方にパッケージデザインもつくってもらった。また、伊良湖ビューホテルでの提供についても検討が進んでいる。

今後はお茶ぱんの提供場所を増加し知名度を向上させることで、四番茶に価値を付け、茶農家の収入機会の増加につなげていきたい。



質疑応答 開発したお茶ぱん 2 種(クッキー生地の抹茶が 30% のものと 10% のもの)を試食しながら質疑応答を行った。

- Q. お茶ぱんを売るなら田原市だけなのか、それとも県外にも売なのか。
- A. 今のところ、田原市で売っていることを考えている。もし売れていけば、豊橋市等にも売らなう。
- Q. クッキー生地の花形だが、何か意味があるのか。
- A. デザインが良いと思ったから。
- Q. 美味しかった。2 種のうち、どちらが人気か。
- A. まだ自分達しか食べていないので、周りの意見はまだ分からないが、自分達の中では 30% の方が美味しいと思っている。
- Q. このお茶ぱんを製造するのに、計画をたてて実際に完成するまでにはどのくらい日にちがかかるのか。

- A. 先輩の代からやっており、もう2年は経っている。
- Q. 四番茶の知名度をどういう方法で上げていくのか。
- A. 抹茶にして色々な人に食べてもらって、知って欲しい。
- Q. 4番茶はそもそも、過去に活用されていたのか。
- A. 活用されていない。
- Q. 販売先をこのあたりで、ということだったが、四番茶はそれ位しか量が取れないということか。
- A. 年に1度しか取れないので、販売先を広げていくことは難しい。
- Q. 開発するにあたって苦労した点は何か。
- A. 先輩たちがやっていたことなので分からないが、色々なものをつくっていたので、そこが大変だったのではないかと。
- Q. (会場に向けて)抹茶が30%と10%はどちらが美味しいか。→会場の手の上がり方は半々くらい。
- A. (この結果を受けて)自分達は抹茶を強くしたいと思ったので、30%が良いとしていたが、10%にした人は、苦みが気になったのではないかと。
- Q. 30%と10%を半々で売ることはないのか、どちらか一方なのか。
- A. なるべく四番茶を強くしたいと思っているので、30%を基本にしたい。しかし、(会場の意見を受け、)10%を使う方が良いのかな、とも思った。



(3) 田口高校 『間伐材の有効利用～木材燃料「アツマル」の開発と普及～』

設楽町の主な産業は林業だが、木材価格の低迷が長く続き、林業で生計を立てることが難しい状況となっている。そこで、山に放置されている間伐材を有効利用して、林業収入を増加できないかと考えた。そこで、ヒノキの丸太コンロに着目し、上に鍋を乗せることが出来ないかと考えた。従来の物では丸太全体に炎がまわり丸太が崩れてしまい、上に鍋を置く事が出来なかった。そこで丸太の溝の入れ方等の加工

方法を検討し、理想の形状を完成させ、アツマルと命名した。アツマルを調理用コンロとして利用すればカレーやポトフを煮込むことができ、ご飯も炊ける。その他にも暖房や照明としても使用できる。燃え残った丸太もプランターや傘たてとして利用できる。アツマルを利用して頂くために普及活動も行ってきた。

具体的には、地元のレジャー施設、防災訓練で利用して頂いた。研究2年目では、より安全にアルマルを使用するための研究、使用方法の拡大のための研究を行った。3年目ではアツマルをより普及させるために、他の地域のイベントにも参加し、多くの意見を頂いた。4年目には、梱包用フィルムで保存性を高めることや、専用コンロを作成することでアスファルトやコンクリート上での利用を可能にした。昨年度は、より持ち運びやすくするための研究を行った。普及活動を進める中で、人々が興味をもって頂いていると感じることができた。また、一昨年には愛知県北部に大雪が降り豊根村の一部が孤立した際に、アツマルを使用して頂き、実際の災害現場でも活用された。また、新城森林組合による地元の材料を使った丸太コンロの販売が道の駅で始まっている。

林業にはまだまだ多くの可能性があり、盛り上げていかなくてはいけないと感じている。今後は地元設楽町だけでなく、他の地域にもアツマルをもって行き、その魅力を広めていきたい。



質疑応答

- Q. 檜以外の木は使用しないのか。
A. 檜しかコンロがつかないので使用しない。
Q. アツマルの販売価格はいくらか。
A. 1個 500 円。
Q. 先程の発表のお茶パンのように、原価と利益というののせているのか。
A. 4m材が1本 4千円。それを10個にわけるので、1つが400 円。それに人件費と電気料を足して500 円で販売している。
Q. アツマルを作る際に大変な作業はあるか。
A. V字に溝を入れるのが、ずれてしまうことがあり難しい。
Q. 住宅街でも使えると良いと思うが、煙はたくさん出るのか。
A. 煙はすごく出るので、住宅街だと厳しい。
Q. 山に放置されている間伐材を利用するということだが、そもそもそれは一般で利用できないのか。
A. 最近は木材価格が低下して、あまり使い道がない。
Q. 火をつけてから、何時間くらい時間がもつのか。
A. 正確には分からないが、ポトフやカレーが煮込める程度はもつ。

(4) 豊橋商業高校 『愛知県530市！？～豊橋の現実を変えていこう！～』

豊橋市民一人一日あたりの家庭ごみの排出量は775 gと名古屋市や愛知県平均、全国平均よりも非常に多い。地域の方からは、530運動を行った次の日にごみが落ちているという現状を聞くことがある。豊橋からごみを無くすために、二つの仮説を立てた。

一つ目は豊橋が530運動の発祥の地であることを広めれば、きれいな街づくりに繋がるという仮説だ。発祥の地だと知ること、市民の環境への意識が変わるのではないかと考えた。

二つ目は企業の協力があれば、530運動の参加が促進されるということだ。市役所の方が行っている活動だけでは大きな結果が得られていない現状を受け、高校生の大胆な発想から生まれた仮説だ。これらの仮説をもとに研究を始めた。調査を行うと、豊橋が530運動の発祥の地だと知っている人の方が530運動の参加割合が15%も高いということが分かった。また、市民のごみに関する意識調査では、自分のゴミを持ち帰る、ポイ捨てをしない、という意識は高かったものの、目の前のゴミを拾う、ゴミを捨てている人を注意する、という意識は低か

った。このことから、現在の530運動の定義「自分のごみは自分で持ち帰りましょう」では不十分なのではと考えた。そこで市民にもっと訴えかけるため、再定義「目の前のごみを拾いましょう」「ポイ捨てする人を注意しましょう」をした。そしてこの再定義を広めるため、1日に8,000人以上が利用する路面電車を使って宣伝することを考えた。より効果的に宣伝するため、最も多くの人の記憶に残っている車体を調査すると、有楽製菓のブラックサンダーであることが分かった。そこで、有楽製菓に協力をお願いしたところ、車体に「豊橋は530運動発祥の地！」というロゴを入れて頂くことが出来た。また、530運動のゆるきゃらのそうじろうの露出をアップすることも考えている。

高校生の力は小さいが、熱い思いを伝えることで社会貢献できることが分かった。今後も家庭ごみの排出量を減らしていくために活動していきたい。



質疑応答

- Q. 530表記された市電が実際に走るのはいつなのか。
A. もう実際に走っている。
Q. 市電がいつまで走るのかは決まっているか。
A. 決まっていない。
Q. 「そうじろう」はなんで「たぬき」なのか。
A. 「たぬき」ではなくて「あらいぐま」。何故かは分からない。
Q. 田原市民で「そうじろう」を知らなかったのだが、「そうじろう」を市電に載せることはないのか。
A. そうなればよいと思う。
Q. 市電以外にも530をひろめる案はあるか。
A. 有楽製菓にグリーンサンダーという商品案をもっていた。抹茶味で、チョコと緑で木、自然をイメージしたもの。それは現在検討中である。
Q. 何車両あるのか。
A. 1車両。
Q. 私も新しい530の定義でいきたいと思う。豊橋が

突出してごみの量が多いのはなぜか。

A. 豊橋市は農業も漁業も盛んで食べ物が豊かに食べられるのが当たり前になっているからなのではと考えている。

Q. 有楽製菓の社長さんと話をしたと思うのだが、どのように取り次いでもらったのか。

A. 企画の担当の方とお話しさせて頂いた。

(引率教諭による補足)提案をするのなら、根拠を練っていかなくてはならない。有楽製菓の会社の方針に環境のこともあったので、それも踏まえて、高校生の熱い思いを伝えた。打ち合わせをするなかで、実現につながった。市役所ができなかったことが、高校生の力でできたということで、市役所の方も感動してくれた。



7. 講評

(1) 参加教諭からの講評

・渥美農業高校

初めて会った人と話すということで、最初は緊張している顔もみられた。知らない人と話すことは、社会人になったときになんか大切なこと。質問が出来るということも大切で、発表をちゃんと聞いていないと質問はできない。皆が質問をしている姿をみて、しっかりと発表を聞けていたのだと感じた。

・田口高校

田口高校の発表について、質問にきちんと返せなかった。2年生は研究を始めて間もないというのが正直なところだが、先輩たちは全て答えられていた。これから勉強していこう。学校では経験できない交流ができた。学校でも生かして欲しい。

・豊橋商業高校

未来の東三河は大丈夫だと思った。話し合いをみて、4グループが自分のこととして東三河の未来を考えていたと感じた。郷土愛を感じた。これがあれば、これからの東三河は安泰だと思った。これから頑張

って欲しい。

・豊橋工業高校

愛知県はものづくり県。工業でどれだけよいものを作っても、ニーズがなければ一つも売れない。売れるものをつくるためには、例えば商業高校で商業を学んだ高校生が、市場調査を行ってニーズを掘り起こし、それを受けて工業を学んだ者がモノづくりをする。また、全ての生活を支えるのは農業、住居を支えているのは林業。様々な産業が支え合って一つの社会をつくっているということを頭の片隅に置いて、それぞれのところで勉強して欲しい。

・豊川工業高校

ビジネスプラン発表は素晴らしく、自分も刺激を受けた。色々な発表を聞いていく中で、もっとこうした方が良い、など考える場になったと思う。これからの色々な取り組みにつなげていけたらよいのではと思った。

(2) 中野和久氏の講評

どのチームのビジネスプラン発表も時間の中で非常に上手にできていた。商品開発について、どこも課題として出てきていたが、販路や生産量。それをおさえていないと仕事にはならない、そのことは忘れないで欲しい。生産、開発のプロセスを皆に見せたことはとても良かった。また、先生からの講評にもあったが、先輩たちの記録を学ばなくてはならない。企業でも何年かにわたって研究していて、それが蓄積されている。それを次に生かすことが大切。

商業高校の発表について。530の再定義をしたのは良いこと。再定義には勇気がいる。ゴミがでるということは豊かであるということ。ゴミがでることは悪いことではない、それをあちこちに捨てるのがいけない。



8. 閉会の挨拶

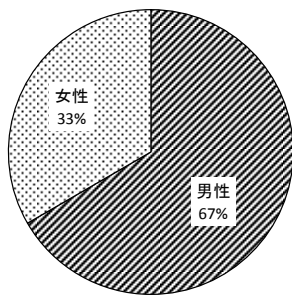
穂の国みらいづくり実行委員会委員長 加藤より閉会の挨拶を行った。

【 アンケート集計結果 】

参加高校生（27名）に対して、アンケート調査を実施し、とりまとめた。

(1) 参加高校生について

（性別）



（住んでいる市町村）

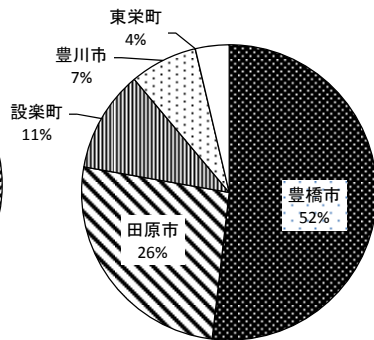


図1 参加高校生の内訳

(2) 参加の感想

参加して良かったことは、「いろいろな学校の友達と話せた」（74%）が最も高く、グループワーク等を通して他校の高校生と交流できたことを良かったと感じた高校生が多かった（図2）。次いで「自分の意見を言うことができた」（70%）が高く、グループワークやビジネスプランの質疑応答で多くの高校生が自分の意見を積極的に発表出来ていたことが分かった。

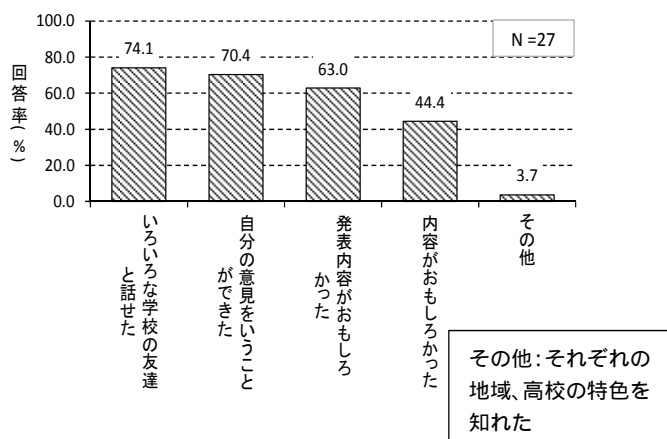


図2 参加して良かったこと

一方で、参加して面白くなかったことでは「余り話せなかった」（52%）と「時間が長かった」（42%）が比較的高かった（図3）。話す時間より、聞く時間の方が長く感じたためだと考えられるため、より自発的で活発な話し合いの時間を多くもつための工夫が必要である。

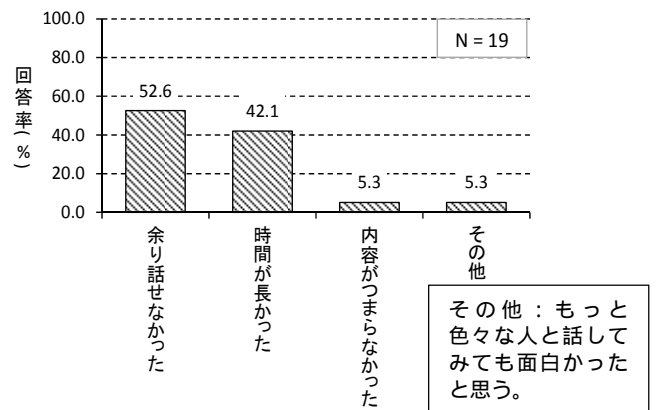


図3 参加して面白くなかったこと

東三河のことに興味をもつことができた高校生は96%であり、会を通じて自分たちの住むまちについて考えることが出来たことが分かった（図4）。

関心の内容としては、普通科以外の高校が多く集まっていたことで「自分の知らなかった分野を知って興味をもてるようになった」という意見が多かった（表1）。

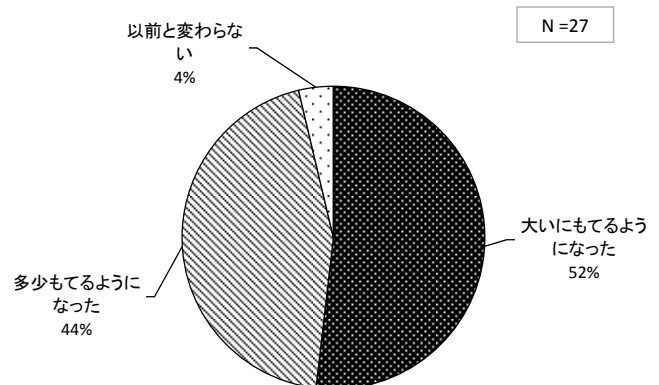


図4 東三河に関心をもてるようになったか

今後、こうした会にまた参加したいと答えた高校生は70%であり、会を通して多くの高校生が自分の住んでいるまちについて関心をもつことの大切さを実感できたといえる（図5）。定期的の実施していくための方法を検討していく必要がある。

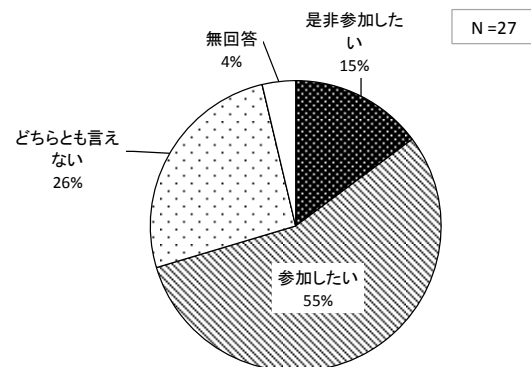


図5 こうした会があったらまた参加したいか

表1 どのようなことに関心をもったか

学校	内容
渥美 農業	・同じ学生で色々なことに取り組んでいて、関心が持てた。
	・豊橋市の530運動。
	・資源を無駄にせず、何かしら活用することが出来る。
	・530運動発祥の地である豊橋の文化。
	・特産物を使って地域を活性化させることは大切だと思った。
	・同じ東三河地域で様々な分野(林業、商業、農業)で少しでも地域に貢献していて、資源の再利用でより良いまちづくりをしていたことを知った。
田口	・農業や林業のことについて、自分が知らないことを知ることが出来た。
	・自分のまちの人口が50%減少すること
	・530運動について
	・自分たちが考えていなかったものを、たくさん知ることが出来た。
豊橋 商業	・人口減少について。
	・産業のこと。他の特殊高校と連携出来ないのか。
	・自分の知らないことばかりで、色々な目線で物事を見ることが出来た。
	・農業や林業などの商品開発の課題を知る事ができ、今後のことが気になった。
	・林業って面白い。
	・林業のこと。
	・余ったものを使うのは、とてもよいと思った。だから、他にもまだあると思うのでやって欲しい。
	・高校生が意見を言うのは、必要なことだと思った。
豊橋 工業	・各学校の専門的な知識を活かして、色々な活動を行っていることが分かり、多くの目線でまちを見ることが出来た。
	・東三河でもそれぞれの地域で特化している産業があることに興味を持った。
	・530運動
	・東三河に住んでいる1人として、豊橋市以外の市町村の現状に触れることができ、とても勉強になった。
。豊川 工業	・これから東三河の地域を支えていくのは僕たちの世代なので、今日のことをこれからは活かしたい。
	・自分のまちについて考える事ができ、それぞれの発表も聞くことができて良かった。
	・どこの地域も、商品開発等を頑張っていると感じた。
	・住んでいる地域の良い所を知れた。

25年後の東三河がどんなまちになって欲しいかについては、「活気があるまち」「若者がつくるまち」という意見が多かった(表2)。

表2 25年後の東三河がどんなまちになって欲しいか

学校	内容
渥美 農業	・活気があり、より住みやすくなっていたら良い。
	・自然につつまれ、豊かなまちになって欲しいと思う。
	・若い世代の人の意見をもとに、企業の方が深く受け入れていく必要があると思う。
	・人が多く、自然が豊かで、住みよいまち。
	・誰でも楽しむ事が出来る、うれしくなるまち。
	・皆が住みやすいまち。
田口	・全ての分野が協同して、良いまちになって欲しい。
	・木や作物等が豊富で、人々にとって生活しやすい環境であって欲しい。
	・のんびりしたまちになっていそう。
	・住みやすいまち。
豊橋 商業	・今日のことを活かして、活気あるまちになって欲しい。
	・人が多く、設備等が整っていて欲しいと思った。
	・人口が減ってしまうという話を聞いたが、人数が減っても活気づいてくれるのではと思った。
	・若者の活気があふれるまち。
	・とりあえず、若者がつくるまち。
	・活気ある市になってほしい
	・住みやすいまちになって欲しいと思った。誇りを持てるところになって欲しい。
	・人口が減少する中で、活性化される町であって欲しい。
豊橋 工業	・自然が多く、明るいまちになって欲しい。
	・住み続けていきたいと思える、豊かなまちであり続けて欲しい。
	・活気のあるまち。楽しく過ごせるまち。
	・25年後の豊橋市には、昔の面影を残しつつ、25年後にもこんなものがあつたなと懐かしさを感じるまちになっていて欲しい。
豊川 工業	・今以上に賑やかで高齢化社会を迎えても問題がないような元気なまちになっていて欲しい。
	・挨拶が盛んなまち。のんびりしたまち。
	・きれいで活気ある東三河。

ミライカフェほの国 2016 は、これからの東三河を担う高校生が、地域と自らの繋がりを理解し、地域活性化のために何が出来るかを考える場です。普段関わることのない他校生や大人たちと意見を交流したことは、高校生にとって貴重な経験になったのではないのでしょうか。

人口減少社会が進む中、地域活性化の原点は、やはり人財です。こうした「人財」を地域から育てていくことが、東三河を持続的に発展させていくエネルギーになります。私も、こうした支援をできるだけ進めていきたいと考えております。

最後に、本会を開催するに当たり、東三河県庁から多大な協力、東三河広域連合からもご支援をいただきましたことを感謝致します。

穂の国みらいづくり実行委員会 代表 加藤 勝敏

平成 28 年 3 月末

主催 穂の国みらいづくり実行委員会、東三河県庁、公益社団法人東三河地域研究センター

後援 東三河広域連合